

事例 34

タイトル: 自身の食事を周囲に勧められても食べようとしないAさん

・ <事例の状況>

昼食時、Aさんに昼食を運ぶと「ありがとうございます。でも私よりあなた食べなさい。」と自分の食事を周囲の人に勧めようとする。Aさんの食事であることを伝えるが、会話が繋がらず、食器をテーブルや床に置こうとする。介助にて口に運んでも、「もう一口で結構です。」と断る。食器を持ちやすいお椀に変えると少し食べるが、途中でも周囲を気遣って、自身の食事を分けようとする。表情は険しくはないが、忙しそうに動く。

食事の拒否は昼食、夕食、おやつに時折見られるが、朝食はとてもスムーズで、ほぼ介助することなくきれいに完食する。

・ <この事例で課題と感じている点>

会話が繋がりにくく、自身の食事を他の人に分けようとし、食べ方がわからなくなる。好き嫌い関係なく食事を拒否するため、どのように対応したら良いかわからない。

・ <キーワード>

食事拒否、落ち着かず動く、会話が繋がりにくい、脱衣

・ <事例概要>

【年齢】80歳代後半

【性別】女性

【職歴】保険会社勤務

【家族構成】入居前は次男夫婦と同居

【認知機能】HDS - R 2点

【要介護状態区分】要介護5

【認知症高齢者の日常生活自立度】 b

【既往歴】直腸脱

【現病】便秘症、アルツハイマー型認知症、骨粗鬆症

【服用薬】 アリセプト(認知症)・エビスタ(骨代謝改善)・アスパラCA(カルシウム)・ワンアルファ(骨ビタミンD)・マグラックス(便通)・グラマリール

【コミュニケーション能力】 にこやかに話をするが、不安な時やわからない時は「大丈夫ですか?」と聞きに来る。会話はつじつまが合わないこともある。

【性格・気質】 温厚。人を気遣う性格。

【ADL】 食事は自立だが、時々食べ方がわからなくなるので声掛け半介助できっかけを作る。排泄は声掛け誘導、動作介助、脱衣することで尿意を伝える。入浴は誘導動作ほぼ全介助。

【障害老人自立度】 J

【生きがい・趣味】歌を歌うのが好き。 歩くこと。 拭き掃除が得意。

【生活歴】 結婚後、B県で夫と3人の子供と生活。40歳代の時市内に引っ越し。平成になって夫が他界し、一人暮らしとなる。今から5年程前に認知症の症状出現により、次男夫婦と同居。

【人間関係】 温厚な性格で優しい気遣いがあり、他入居者と大きなトラブルはないが、嫌いな人には表情で感情を露わにする。

【本人の意向】 優しい人と一緒にいたい。家族に会いたい。

【事例の発生場所】 グループホーム